

浅川総合内水対策計画(案)の概要

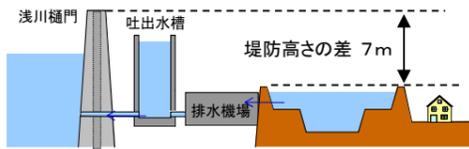
流域の概要

◎地形的特徴

浅川流域は、上流部の飯縄山から長野市市街地上部は、山間地で急峻な溪流の状況を呈し、千曲川に流入する付近の下流平野部では緩やかな勾配となり、対照的な地形的特徴を有しています。このため、中流部は扇状地として形成され、そこに長野市市街地が形成されている。なお、長野市街地となっている中下流部は、河川改修実施前には著しい天井川となっています。

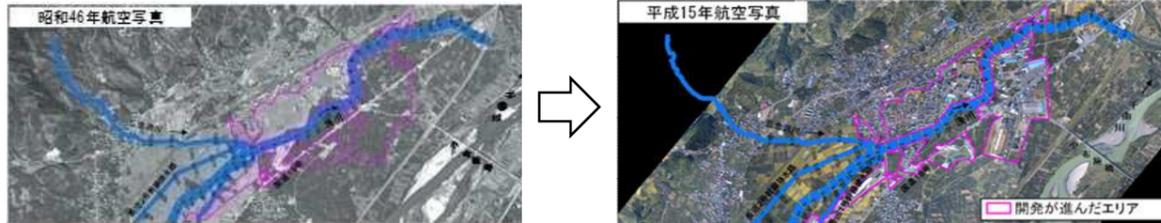
浅川が流入する千曲川との堤防の高さは約7.0m低くなっていることから、合流部に逆流防止のため浅川樋門が設置され、千曲川の水位上昇に伴い浅川樋門が閉鎖した時にポンプが稼働して浅川の河川水をこの排水機場で千曲川へ排水しています。

千曲川の水位が上昇すると浅川樋門を閉じ、ポンプで排水しています



◎市街化の進展

千曲川合流前の浅川下流部沿川は、昭和40年代までリンゴを主体とする果樹栽培に広く利用されてきましたが、現在では宅地開発が進み市街化されています。このため、浅川の内水による浸水被害が懸念されています。



浅川の治水事業

浅川の上・中流部の沿川では、過去から洪水による被害が発生しており、このため、昭和51年より抜本的な改修として、浅川ダムの建設とダムに洪水調節を見込んだ河川改修事業を進めています。

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 【浅川治水ダム建設事業】 | 【河川改修事業】 |
| 形式: 重力式コンクリートダム | 改修延長: 12.2km |
| ダム高: 53m | 改修内容: 河道拡幅、河床掘削 |
| 堤頂長: 165m | |
| 総貯水量: 110万m ³ | |



過去の浸水被害と事業経過

◎過去の浸水被害

昭和56年、57年、58年には3年連続で内水被害が発生し、特に昭和58年9月洪水では、床上浸水331棟、床下浸水188棟、浸水面積248.5haの既往最大の内水被害が発生しました。

年月日	総雨量 (mm)	最大時間雨量 (mm)	浸水面積 (ha)	浸水戸数(戸)		排水機場整備状況
				床上	床下	
S56.8.21~8.23	117.5	23.0	20.3	23	81	14m ³ /s
S57.9.11~9.13	140.0	11.5	161.8	171	35	14m ³ /s
S58.9.28	112.0	12.0	248.5	331	188	14m ³ /s
H16.10.18~10.22	140.5	16.0	18.8	0	10	44m ³ /s



◎内水・流域対策事業

浅川の洪水対策とは別に、水害に強い地域構造の確立等、総合的な治水対策を講じ、流域の被害の軽減を図るための対策を実施してきました。

【流域対策】

- 雨水調整池、学校校庭貯留等の整備を行っています。
- 調整池 5箇所 貯留量48,800m³
 - 学校校庭貯留 8箇所
 - 一般住宅へ貯留施設設置の助成 3438箇所(長野市全体)

【排水機場の整備】

昭和40年代から農地湛水防除事業等により排水機場の整備を行っています。(浅川、長沼排水機場他5機場)



浅川総合内水対策計画

基本方針

既往最大被害となった「昭和58年9月台風10号」と同規模の洪水に対し、宅地部での床上浸水被害を防止することを目標に、排水機場の増設、河川改修、浅川流域の流出抑制対策などのハード対策、長野市、小布施町及び地元住民と連携したソフト対策を段階的に実施することにより、内水被害の効果的かつ効率的な軽減を図ります。

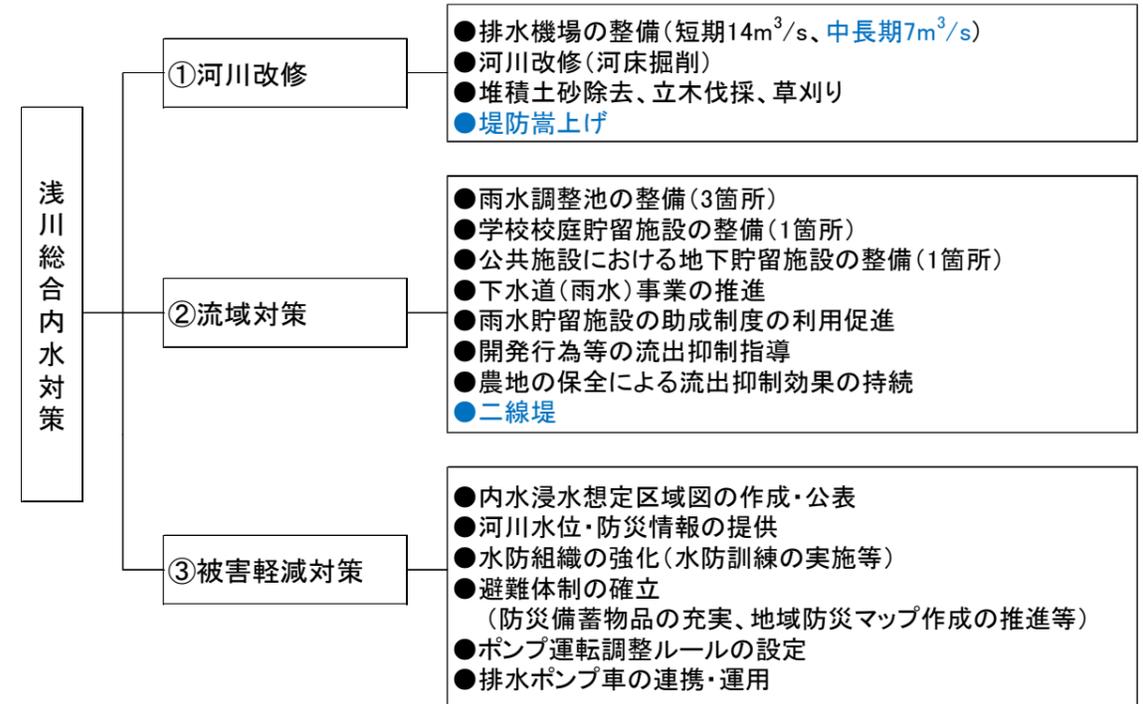
計画対象区域

千曲川53.5k+75m地点に流入している、浅川排水機場を流末とした浅川流域とします。

計画対象期間

短期計画は概ね5年間とします。
中長期計画については短期計画実施後に引き続き実施します。
実施時期については随時検証を進める中で検討していきます。

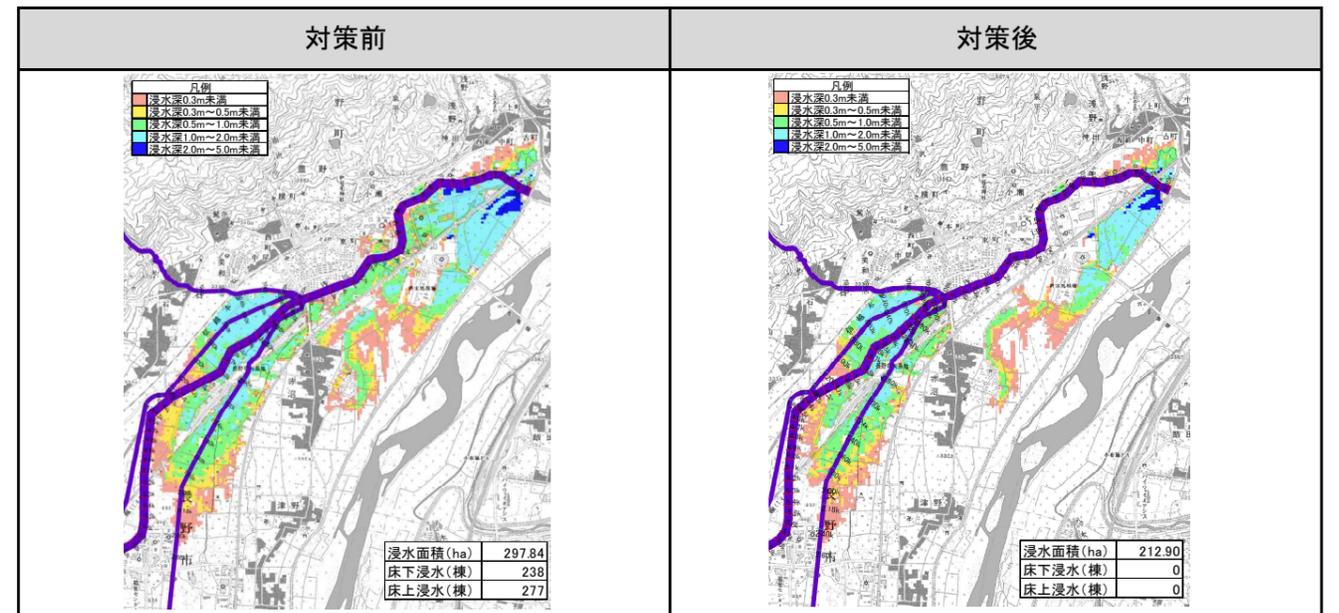
施策体系図



黒字: 短期的整備 青字: 中長期整備

想定される効果

既往最大被害となった「昭和58年9月台風10号」と同規模の洪水に対し、宅地部での床上浸水被害は解消される効果が見込まれます。



■短期的整備について

計画の目標

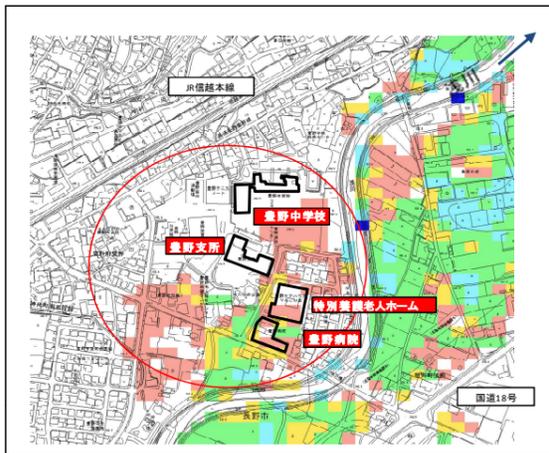
浸水想定区域内の浸水範囲や浸水深を減少させ、内水被害の軽減を図ります。特に災害時の重要拠点(豊野支所等)や避難所(豊野中学校等)、災害時要援護者施設(豊野病院等)などがある地域の浸水被害を防止します。

事業概要

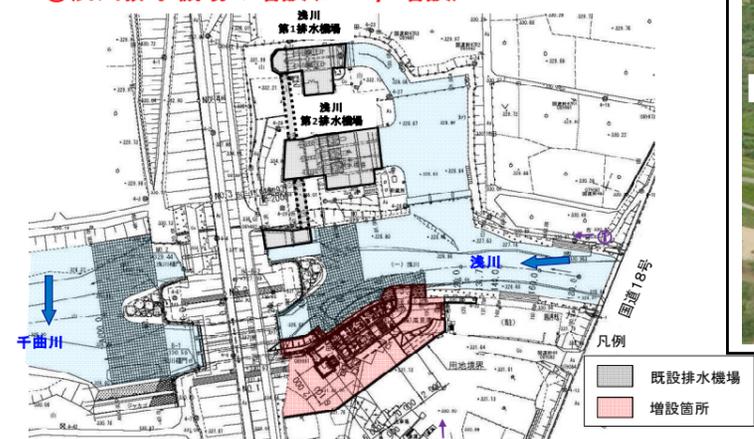
【事業期間】概ね5年間
(平成26年度～平成30年度)

ハード対策

浅川排水機場を14m³/s設置し、浅川から千曲川への排水能力を高めるほか、浅川流域内に雨水調整池や学校校庭貯留等の貯留施設を整備し、流域全体で浅川への流出抑制を図ります。



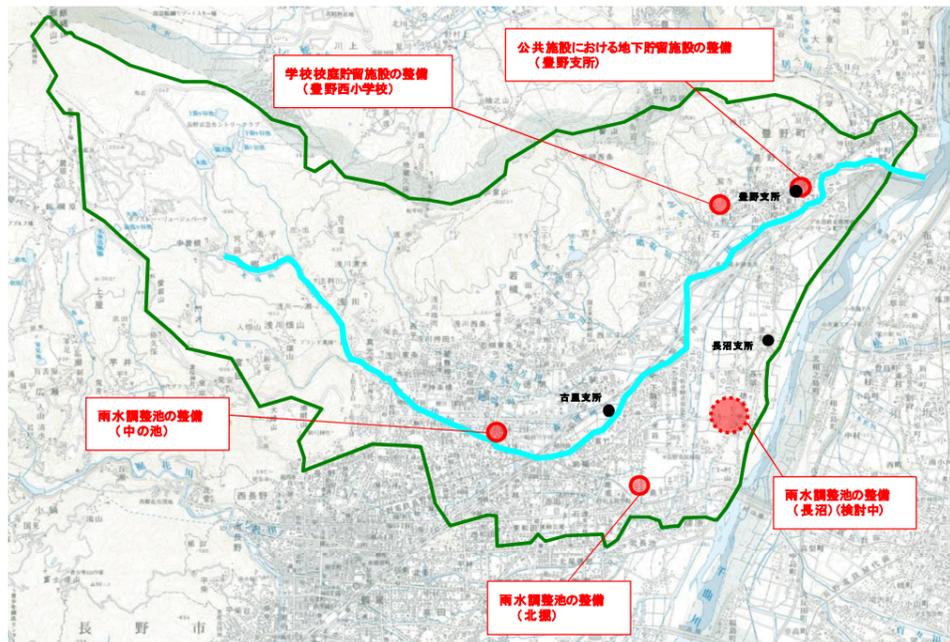
①浅川排水機場の増設(14m³/s増設)



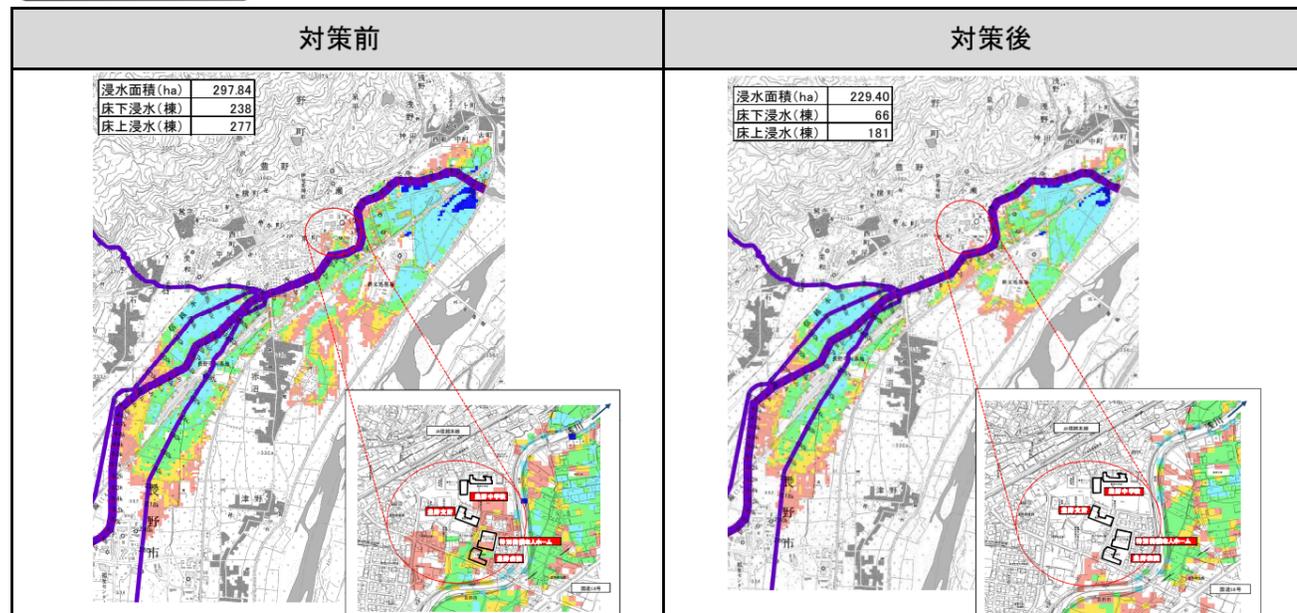
②雨水調整池の整備(北堀、中の池、長沼)

③学校校庭貯留施設の整備(豊野西小学校)

④公共施設における地下貯留施設の整備(豊野支所駐車場)



想定される効果



ソフト対策

防災に役立つ雨量・河川水位情報等をリアルタイムでの情報提供するとともに、浸水想定区域図の作成・公表、防災備蓄物品の充実により浸水被害時における流域住民の避難体制を確保します。流域内における開発行為等に対して流出抑制施設の設置指導を引き続き実施し流出抑制を図ります。

- ①排水機場運転調整ルールの設定
- ②浅川内水位の情報の提供
- ③内水浸水想定区域図の作成・公表
- ④開発行為等における流出抑制施設の設置指導
- ⑤防災備蓄物品の充実

■中長期整備について

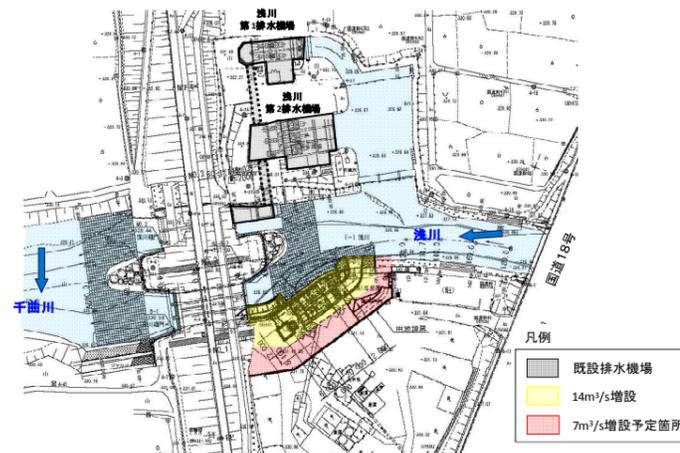
計画の目標

既往最大被害となった「昭和58年9月台風10号」と同規模の洪水に対し、宅地部での床上浸水被害を防止します。

ハード対策

①浅川排水機場の増設(7m³/s増設)

短期で整備した14m³/sの排水機場の隣接地に7m³/sの排水機場を増設し、58m³/sを65m³/sまで増設します。



②堤防の嵩上げ

千曲川合流点から0.2km～1.7km区間において、堤防嵩上げを行い、宅地部での床上浸水被害を防止します。

③二線堤

多くの市民が利用する商業施設周辺に二線堤を設置し、床上浸水被害を防止します。

ソフト対策

浅川総合内水対策に位置付けられたソフト対策を引き続き実施し、被害軽減に向けた取り組みを進めます。

想定される効果

①～③のハード対策を整備することで、既往最大被害となった「昭和58年9月台風10号」と同規模の洪水に対し、宅地部での床上浸水被害がなくなります。

